



Electric

BODY WOODS



Sound

FRET STYLE, NECK STYLE



Products

ボディ材

ESPでは、個性的な音質とルックスの“エキゾチック・ウッド”を長年ナチュラル・シーズニングしています。そして、乾燥状態、音質を丹念にチェックし、セレクトしたもののみを製品として送り出します。十分乾燥を行なわれていない材は、音ヌケが悪かったりネジレやソリの原因となりかねません。

材の特性や音質などを十分把握した上で、好みの材と好みのパーツを組み合わせ、さらにはボディ&ネック形状などを研究して、オーダーメイドでギター&ベースを創るのも良いでしょう。



●Jasverwood Body



●Alder

●Jasver wood

●Ash

●Chestnut

●Walnut

●Mahogany

メイプルには、フィガード・メイプルと呼ばれる美しい模様をしたものがあり、そのルックスからタイガー・ストライプ・メイプルとかキルレッド・メイプル、パースアイ・メイプルと呼ばれたりする。これらの材は、特に気象条件の悪い、厳しい環境で育った材で、通常のものよりも繊維密度が濃く、さらにサステイーンやアタックに優れている。

●ウォルナット

薄茶色の木肌とアタックの強いハッキリとしたトーンを特徴とし、硬めで重めの重量の材。ボディ材ばかりでなく、ネック材などにも使用される事が多い。スタジオ・ミュージシャンなどに特に評判の良い材です。

●マホガニー

レス・ポール・モデルのボディ・バック材として有名だが、近年はその独特の深く暖かみのあるトーンの中低域音を特徴とするトーンとハムバックング・ピックアップのネバっこいサウンドを組み合わせたストラト・タイプ、テレキャス・タイプのギターも一部ミュージシャンの間で好まれている。ラウドネスの高輪罫が使用しているランダム・スターにもマホガニー・ボディのものがある。重さは軽量。クリアな高域音を望む場合、メイプルとラミネイトすると良い。

●アッシュ

今日最も多くのメーカーがボディ材として使用していると思われる材だが、アッシュ材にも色々種類があり、一般的なカナディアン・アッシュ、ノース・アメリカン・アッシュは適度の重量と音ヌケの良さを特徴とし、しかも高・中低と音バランスも良い。近年のストラトなどに使用されているホワイト・アッシュは、重量も重く、硬くクリアなトーンを特徴としている。

●アルダー

フェンダーが50年代～60年代にかけて一時期ボディ材として使用していた材として知られ、いわゆる枯れたトーンの中低域音を特徴とする音質の為、オール・トーンを求める人には最適だ。重量も軽い。

に使用した場合はトレプリーで弾力性のあるトーンになる。

●コア

古くはアコースティック・ギターやウクレレなどの高級材として使用されていたものだが、近年はソリッド・ボディ・ギター用の材として高く評価されるようになった。硬質ながら割れにくい軽量で、音質は暖かくなばりのあるトーンを特徴とする。

●メイプル

ネック材として多く使用され、音の立ち上がりが良く、クリアでマイルドなトーンを特徴とする材で、一般的に硬質でウエイトは重い。最近では、ウエイトが適度なものをボディ材としても使用し、そののびの良いアタックの強いハッキリとしたサウンドは、エフェクターを通した時にもモヤけることのない輪郭のハッキリとしたトーンを保ち、好評です。

●ジャスパーウッド

近年最高のボディ材として高く評価されているジャスパーウッドは、そのほとんどにタイガー・ストライプのような美しい模様があるのと、まろやかでいてシンのある、アッシュやアルダーでは望めない、メイプルほどキンキンせず、マホガニーほど甘くない中低域音に特徴を持ったトーンが魅力。重量も適度。

●チェスナット

アッシュに似た木目、重量をしているが、高域音は鋭く、中低域音も太く安定感のある弾力性のあるトーンをしている。ギターに使用した場合は、フラットで太さのあるトーン、ベース

フレット形状

細フレット

(フェンダー・タイプ)

太フレット

(ギブソン・タイプ)

極太フレット

(ジャンボ・フレット)



ミディアム

ハード

ハード

オール・フェンダー・ストラトに使用されているタイプのフレットで、音の立ち上がりはシャープで、歯切れの良い音を求めるアーティスト向き。

ギブソン・レス・ポール・スタンダードに使用されているタイプのフレットで、音程が正確にとれ、運指がスムーズ。また音の立ち上がりも良い。

チョーキングなどを多用する近年のアーティストに人気のフレットで、タッチ・ニュアンスは太フレットに似ているが、サスティーンへのびなどが抜群。

Neck グリップ^o (シェイプ)

スタンダードU



基本的なシェイプで、クセのないノーマルなタイプ。オールマイティであり、どんなジャンルの音楽にも使用する事が可能だ。

オールドV



オール・フェンダーに使用されていたシェイプで、別名“三角ネック”とも呼ばれ、山の部分がたかたか、左右を削ってあるの小さい感じがする。

SV (Takasaki V)



オールドVをさらに鋭角にしたシェイプで、ラウドネスの高輪罫見用のスタイル。使い慣れない人にはちょっと弾き辛いですが、使いこなせば使用感バツグン。

SU



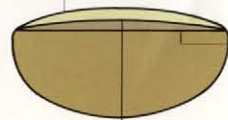
スタンダードUシェイプを全体にうすくした感じでフィット感バツグン、女性の方にもおすすすめ。

UC (V・ヘイレン・シェイプ)



Uシェイプの極端ともいうべき、うすく、平たいシェイプで、エドワード・ヴァン・ヘイレンをはじめ、最近のギタリストに愛用者が多い流行のタイプ。

指板アール



240R

オール・フェンダーに使用されているタイプで、グリップ感は抜群。弾き心地も抜群のスタンダードなアールです。

400R

最近特に人気のあるアールで、ギブソン・タイプに近いが、もう少しフラットで、コードバランスも良く、弦高もかなり低く出来る。

リアル・フラット

ガット・ギターなどがこれだ、ラットのウォーレンなどこのアール。クセが強く、最初バランスも良く、弦高もかなり低く出来る。

ESP オーダーメイド・システム

ESPでは、材、パーツ、フレット形状、ネック・グリップなどミュージシャンの微妙なトーン・ニュアンス、タッチ・ニュアンスに応えた“オーダーメイド・システム”で、好みの形状、好みのサウンドのギターがオーダー出来ます。詳しくはESPもしくはESP特約店でお問い合わせ下さい。